

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 信州大学教育学部附属松本中学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例: 小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒390-0871

長野県松本市桐 1 丁目 3 番 1 号

E-mail mc_nakata_yuta@shinshu-u.ac.jp

Website http://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/fuzoku/matsu-chu/

幼児児童生徒数 男子 231 名 女子 244 名 合計 475 名

幼児・児童・生徒の年齢 13 歳 ~ 15 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月 ~ 平成 30 年 3 月

※報告書提出時点 ~ 平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度 + 活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、学校目標「たくましく心豊かな地球市民」の具現を目指し、ESD を具現のための手がかりと捉え、ESD の実践を通して自己表現力・課題探究力・社会参画力の育成を目標とした。

具体的には、教科の総合化・教科横断的なカリキュラムの構築、学級総合を柱に、授業における資質能力を育むための単元構想活動 (①、②)、地球市民を意識した活動 (③)、ユネスコスクールとの交流活動 (④) を行った。

① 資質能力を育むための単元構想に係わる活動 (教科の総合化)

総合的な活動の時間に防災について学んでいる生徒たちが、災害時には電気が足りなくなると考え、個人レベルで自由に使用するための発電方法を考え、自分たちが使いたい家電製品の電力を調べたり、そのための電力確保のための方法について、実際に実験を通して確かめたりしながら、地震が予測されている長野県での対策を考えていった。

② 資質能力を育むための単元構想に係わる活動（学級総合）

学級で取り組む総合的な学習の時間で、里山を生かして浅間温泉の活性化を目指そうと考えた生徒が、里山の活用方法を作成し、管理者の方々に提案をしたりして、より魅力的な里山を地域や観光客に発信したり地域を活性化することの難しさに直面したりして、社会参画するための資質・能力を育んだ。

③ 地球市民に係わる学習

学校目標に掲げられている地球市民とは、どのような人物のことを指すのか1ヶ月に約1回の集会を通して、生徒会活動を通してどんな人物を想像するのかを全校集会や、文化祭で地球市民について防災をテーマにしながら意見を共有した。

④ ユネスコスクールとの交流に係わる学習

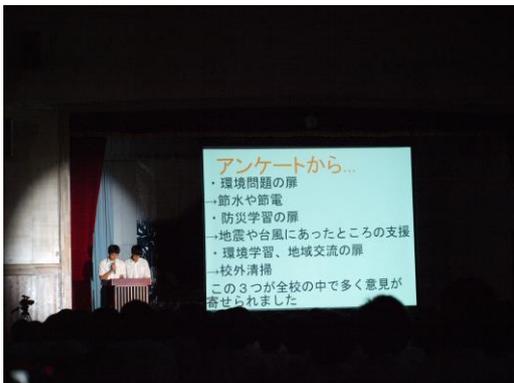
昨年度より、志賀高原ユネスコエコパーク学習および宿泊学習を実施し、同県のユネスコスクールである中学校との交流を行い、お互いの学校で行ってきた活動の紹介をおこなった。



① 発電装置の製作・データ集積



② 地域の方へのプレゼン



③ 文化祭での地球市民集会



④ ユネスコスクール交流

(2) 活動の詳細
活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input checked="" type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

特になし

- ① ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程 (指導計画) にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。(200~300字程度)

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

<p>附属松本学校3校園(幼小中)の育てたい資質・能力を「自己表現力」「課題探究力」「社会参画力」とし、12年間の学びの最終的な姿を想像して学習活動を行っている。現在まで、それぞれの資質・能力に各教科で焦点を当てて授業実践を行ってきた。核となる単元として各教科で年間に1~2の単元について、身のまわりにある事象について生徒の疑問から授業を構築し、生徒が自ら課題を設定して探究することを通して、解決方法や結果を見だし、再び実生活の事象や現象を別の視点で分析ができるような授業に取り組んでいる。</p>

- ② 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。(200字程度)

※チェック事項 1-4 に対応

年度当初に教職員を含めた全校でユネスコスクールやESDについて集会を開いたり、年間を通じて各委員会の活動をESDの8つの視点で捉えたりすることを行っている。ユネスコスクールや前年度の活動を生徒自ら新入生むけのパンフレットを作り、継続的に意識を継承できるような工夫も行った。

- ③ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価(内部/外部)の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。(200字程度)

※チェック事項 1-5 に対応

学校評価アンケートをとり、保護者・生徒・教職員の意識を数値に表し、年度反省として考察を行った。また、授業研究会を開き、資質・能力がどのように育まれているかを外部の先生方や地域の方々から意見をいただき検証した。課題探究力の育みはある程度見られているが、自己表現・社会参画については具体的な成果として表れにくいのでどのような評価で判断していけばよいか今後の課題である。

- ④ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度)

※チェック事項 2-2 に対応

③と重なるところもあるが、毎年数例の授業研究会を行った。また、文化祭で地域の方々に取り組みなどを見ていただけするようにした。メディアで取り上げていただいた記事や報道などを校内に掲示するなど、広く関心を寄せていただいていることを実感できるようにした。県内外からの授業研究会への参加があり、注目されていることも実感した。

- ⑤ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

海外研修に行く職員に学校紹介のパンフレットを英語で作成した。ユネスコスクールではなかったが、今後世界に発信するための準備ができた。県内の中学校と交流を行い、今後県外のユネスコスクールと交流できるような実績を積み上げた。

- ⑥ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）
※チェック事項 2-4 に対応

長野県のESDコンソーシアムに参加した。信州大学教育学部で行われた会にも参加をし、各団体との情報交換などをおこなった。信州大学の先生にも相談をしたりして、今後どのような展開を行っていくのか考えている。

- ⑦ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

「自己表現力」「課題探究力」「社会参画力」の資質・能力が生徒にどのように育まれているのか。カリキュラムにおける評価の部分。ユネスコスクール間の交流の強化。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

学校園の資質・能力の育成がどのように評価すべきなのか、カリキュラムの構築を継続し、評価方法をより明確にしていく。
ユネスコスクールやESDの8つの観点を手がかりにして、学校目標の「たくましく心ゆたかな地球市民」像を生徒ひとりひとりが具体的にイメージできるように、SDGsをキーワードにして学校の諸活動に取り組める環境づくり。
国内外のユネスコスクールとの交流の強化。具体的には県外1校。国外1校との交流を実現したい。